

令和4年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画

世界的な脅威となっています新型コロナウイルス感染症は、2020年初めより日本において感染の影響が出て以来、現在も変異を繰り返し続いています。社会活動が自粛され、日常生活や教育文化、生産活動に大きな支障が出ています。進和学園としましては感染防止対策に取組み、コロナワクチン接種につきましても嘱託医、行政のご協力を得て3回目の接種も円滑に実施できました。しかし、その経過の中で2021年8月には、障害者支援施設「はばたき進和」でクラスターが発生（計21名陽性）、以降も複数の施設・事業所で利用者ご本人、子どもたち、職員の数名が陽性、濃厚接触となりまして、保健所はじめ関係機関と連携して対応しているところです。感染力の増大と子どもへの感染拡大もあり決して気を緩められる状況ではありません。さらに新型コロナウイルス感染症が、人が交流する機会の減少や家に籠りがちになる不活性化をもたらし、心の問題に及んでいることを懸念しています。そのようなコロナウイルスの脅威に世界がさらされる中、2022年2月に始まったロシアの武力による世界平和への威嚇は、命の尊厳、多様な価値観を認め合う現代に生きる私たちにとって許せるものではありません。心から「世界平和」「ともに生きる」社会の実現を、念願するものです。

令和4年度は利用者ご本人の高齢化、重度化の課題に向けて具体的な法制度の動きもあり、虐待防止対策、身体拘束の課題についての取組強化が求められます。特に神奈川県は「当事者目線の障がい福祉」を進める大きな流れの中にあり、障害者支援施設等意思決定支援モデル事業については進和学園として今までの取組を踏まえて諸課題に取り組んでまいります。

今後の障がい部門の役割・機能については、「本人中心」の理念のもと、引き続きご本人の意思決定を尊重し、ライフステージの中で必要な支援を必要な時期に受けられる、ご本人が安心して暮らし、働ける循環型サービスを確立します。そのために入所施設・グループホーム並びに日中活動支援事業所のサービス体系のさらなる推進を図ります。特に相談機能の強化を図り、入所施設は引き続き短期入所等の機能を充実してセーフティネットとしての地域生活支援拠点を担い、グループホームは支援体制の多様化を図ります。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組んでまいります。

保育園部門は、地域の期待に応えるべく引き続き子育て支援の充実に努めてまいります。学童保育部門については市行政、学校と連携するとともに、法人各部門と協力して放課後、長期休み期間の保育の推進に努めてまいります。

福祉人材の確保、定着、育成については、社会的にも大きな課題となっております。障がい、保育、学童の各部門で連携して進めるとともに、法制度の処遇改善加算等を活用し、福祉の仕事が「やりがいのある魅力ある職場」であるという発信に努め推進してまいります。

進和学園は地域・社会に支えられ64年目を迎えます。本年度も「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人、子どもたちの幸せとご家族の安心のために職員一丸となって取り組むと共に、地域の社会資源として「福祉のまちづくり」「防災」についても貢献できるよう努めてまいります。

《重点的に取り組む課題》

1 新型コロナウイルス感染症の対策について

新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を引き続き徹底してまいります。神奈川県下の福祉施設でも多数の感染者が出ている状況です。当法人の施設・事業所でも一部クラスターが発生しました。ワクチン接種が済んでおりましたので、大きな感染拡大には至りませんでした。高齢、基礎疾患を持っている利用者ご本人が多い中、日頃の対策に加え、嘱託医、保健所等関係機関と連携して感染を最小限に食い止める対応に引き続き努めてまいります。

2 福祉人材の確保・育成について

人材確保については、新卒及び中途採用の推進を、採用人事サポートチームを中心とした体制でオンラインを活用する等積極的に取り組みます。特に保育士の人材確保は大きな課題となっております。障がい部門と共同し養成校への学校訪問や感染対策に留意した実習受け入れなど工夫しながら推進していきます。人材育成については、職員養成委員会、人材育成・人事考課制度委員会、人権・虐待防止委員会等が中心になり、階層的な研修体制を推進し更なる充実に努めてまいります。

3 万田・高根地区の総合的な再整備について

「しんわやえくぼ」は昭和 38 年設置以来、進和学園の児童施設時代から現在まで日中活動の作業所、陶芸教室、いこいの場として活用されています。しかし、土砂災害警戒区域で急傾斜地の下にある立地であることから、隣接地所有者の(株)小松製作所様には、安全対策のため急傾斜地の擁壁整備や高木伐採など長年ご配慮いただいているところです。昨今、地震、風水害等の自然災害の脅威が高まる中、「しんわやえくぼ」の安全対策をふまえた万田・高根地区の総合的な再整備について関係機関等と協議調整して進めてまいります。総合的な再整備に進和やましるホームの住環境の改善があります。

進和やましるホームは開設から 36 年目となります。高齢化、重度化は年々進んでおり、令和 2 年度にエレベーターを増築しました。さらに重度障がい者の住環境の改善を図るために個室化、ユニット化の整備が望まれます。また通所生活介護事業利用者ご本人のご家族の高齢化が顕著になっており、ご家庭でご本人を支えていく限界が近づいています。国の方針で入所施設定員は増やせない状況ですので、自閉的傾向の強い方や強度行動障害がある方にとっても住みやすいグループホームを設置する必要があります。入所施設の住環境整備の充実と、地域移行を目指しグループホームと連携しながら、利用者ご本人がどこで生活をしたいのかを選択できるように推進してまいります。

4 多様なニーズに対応するグループホームについて

神奈川県単独補助事業として、国のグループホームの前身である通勤ホーム制度が昭和 53 年に創設されて以来、進和学園は取り組んできました。当初は一般就労が可能な中軽度の利用者ご本人が主な対象者でありましたが、現在は障がいの重い方、高齢の方などもグループホームを利用するケースが増えてきております。理由は様々で、入所施設の定員枠が空かないため、少人数の暮らしを希望しているため、自立生活を体験するため、などがあります。よって多様化するニーズに対応できるようなグループホームが必要となります。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化が求められます。グループホームの 11 か所の共同生活住居については、ご本人のニーズに合わせて住居ごとに特色のある支援体制を整備してまいります。特に入所、在宅からの体験利用を促進する体験型グループホームの必要性もあります。法人で取得した万田地区一戸建て住宅を体験型グループホームとして検討してまいります。

5 学童保育の推進について

「旭学童保育会第 1」「旭学童保育会第 2」は、令和 3 年度に保護者会から運営を引継ぎ、「勝原学童保育会第 1」「勝原学童保育会第 2」と合わせて、令和 4 年度の学童保育の支援単位は 4 か所になりますので学童保育部門の強化を図ります。就学児童数は減少していますが、学童保育を利用する児童は増加の一途です。そのため進和学園の人材、プログラム、機能等で総合的に学童保育の運営をバックアップしていきます。この機会を捉えて、子どもたちが福祉のふれあいを通して、多様な価値観を認め合い尊重する「ともに生きる社会」の醸成を目指してまいります。

6 放課後等デイサービスの推進について

「ビーライトしんわ」と「しんわブライト」の 2 事業所で放課後等デイサービス事業を運営し、他事業所での受け入れが難しい重度の障がいを持つ中高生を対象とした放課後支援と、近年ますます増加の一途を辿る発達障がい児を対象とした進和学園独自のグループ活動による総合的な発達支援プ

プログラムを提供することで地域に貢献します。

2012年には9カ所であった市内の放課後等デイサービス事業所は年々増加し続け現在は32カ所までになっており、事業環境は大きく変化しています。この変化の中で競争力を高め差別化をはかるために地域の支援ニーズの把握に努め、法人他施設の事業を含めた経営資源を存分に活用した特色のあるトータルパッケージとしてのサービス支援の設計や、放課後支援の対象年齢層拡大の是非の検証、提供するサービス支援内容に関するわかりやすく訴求性の高い情報発信の強化などに積極的に取り組み、専門性の高い知識と支援技術の向上をはかります。

7 生産事業推進体系の再編に向けて

進和学園の作業体系の中で大きな柱であるホンダ車部品組立作業は、新型コロナウイルス感染拡大による買い控え、半導体不足が追い打ちをかけ、大変厳しい状況にあります。さらに脱炭素社会を目指す世界の潮流の中で、ガソリン車から部品点数の少ない電気自動車(EV)へのシフトが加速すると思われまます。このような状況から作業収入、作業量を確保するため進和学園の就労支援体系の「しんわルネッサンス」「サンメッセしんわ」「しんわやえくぼ」の作業体系の再編に取り組むことが喫緊の課題となっています。ホンダ車部品組立作業の引続きの推進を図りながらも、新規受注作業の開拓、自主生産事業の拡大を検討していきます。特に「サンメッセしんわ」の製パン事業の増産体制を考える時に、現在の限られたスペースでの設備の増強は難しいため、「しんわルネッサンス」内に新しく製パン作業室を整備し、農産品加工事業と連携した付加価値のある製品づくりを目指します。冷凍製品に注力し、大量注文に対応できる生産体制を整え「湘南みかんパン」「湘南ブルーベリーぱん」等の主力商品の全国展開にもチャレンジしたいと思っています。

8 意思決定支援モデル事業について

神奈川県で創設した「障害者支援施設等意思決定支援モデル事業」は2年目を迎えます。令和3年度、進和あさひホームは「簡易想定モデル」を受託し取り組んできました。令和4年度につきましては、神奈川県内で「普及想定モデル事業(4ヶ所)」と「簡易想定モデル事業(4ヶ所)」が公募という形となり、進和あさひホームは「簡易想定モデル事業」の経験も踏まえ、「普及想定モデル事業」に応募し受託することとなりました。対象者3名を選定し、意思決定支援チームによる支援、アドバイザーからの助言を受けながら意思決定支援の取り組みを推進するために必要な現状分析や課題抽出を行い、課題解決に向けた取り組みを行ってまいります。

9 相談支援事業について

サンシティの相談支援事業では、行政機関より委託を受けて実施している相談業務において年々発達障がいや家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。特に8050問題にて介護事業所や市役所と連携しての引きこもりのケースが目立ってきました。一般相談およびサービス等利用計画作成のもと相談支援を行ってまいります。ビーライトしんわは障がい児相談事業に取り組み、その業務の充実には専門資格取得が欠かせないため、引き続き中堅職員を中心に外部研修を計画的に推進します。平塚市の相談窓口は3障がい(身体・知的・精神)で分担し、サンシティは知的部門を担っています。今後の基幹相談支援センター、地域生活支援拠点等の整備については平塚市自立支援協議会等の関係機関と共に望ましい形を提案してまいります。

サンシティにおける就労援助部門では、湘南西部圏域(平塚、伊勢原、秦野、大磯、二宮)の広域事業であり、登録者が約750人と非常に多く、地域の就労支援の中核として活動を行っています。新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、特に精神障がい、発達障がいのある方の相談が非常に増えています。各方面(企業、労働行政、福祉サービス、教育)との連携の上、地域の障害者雇用促進を図り、多くの方々の支援に努めます。

10 公益的な取組みについて

公益的な取組については、一昨年からの新型コロナウイルス感染症の社会の感染状況に合わせて、

地域との交流事業や行事、イベントは自粛しながらも、感染予防対策を徹底することで限定的に実施してきました。今後とも感染状況に合わせて、以下の通り公益的な取組みを出来る限り実施していきます。在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、地域子どもたちの陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組んでいきます。今後の取組として検討しているものに「認定就労訓練事業」があります。これは生活困窮者自立支援法の中に規定される事業であり、生活困窮者に対し就労の機会の提供を行うとともに、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行う事業です。一定の基準でこの事業を実施する場合は、都道府県知事等が認定する制度ですが、運営費等の助成はありません。人々が生活を送る中で直面する困難、生きづらさは多様化、複雑化しています。市町村全体の支援機関、地域の関係者が受け止め、つながり続ける支援体制が必要となっていますので、進和学園としても社会福祉法人の使命として取り組んでまいります。

《重点目標 施設運営》

1 保育園部門の運営について

年明け頃よりオミクロン株と思われる子ども達の感染するケースが増加しております。神奈川県から令和4年2月18日に「医療従事者をはじめ、社会機能を維持する事業所の従業員が必要とする保育を確保するために、保健所による濃厚接触者の特定は行わず、原則として臨時休園はせずに開所を継続する」との方針が通知され、平塚市も同様の対応となりました。子ども達同士、感染予防対策としての三密等を回避することが難しい保育の中で、出来るだけ感染予防対策に取り組み保育の継続に努めていきます。保護者との連絡体制についても保護者への一方的な情報の発信が多くなならない様に必要に応じて個別の面談等を行い子ども達の保育園での生活の様子や成長を共有出来るように努めます。引き続き、保育園内での活動をより充実出来る様に、各園の情報の共有を図ると共に、可能な範囲で在園児の交流及び職員の人事交流等をおこない、保育の質を高められるよう取り組みます。

2 人材育成の推進について

今年度はオンライン中心の階層別研修と各施設でのスーパーバイザー方式の人材育成・定着は人材育成・人事考課制度委員会を中心に、またキャリアアップ研修、国家資格取得奨励は、職員養成委員会を中心におこないます。さらに職員の資質向上に資するための外部を含めた研修参加を、職員個々の希望もくみ取って推進します。人権委員会及び職員養成委員会協調による人権擁護に係る研修も、引き続き積極的に推進してまいります。

3 人事考課制度の確立について

職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している当該制度は、運用6年目を数えます。階層、職域に応じた評価軸の設定や、管理職が一時考課及び二次考課を担当することも4年目となり、より適正な評価に近づくものと思います。各職員の意見を聞き入れながら人材育成・人事考課制度委員会を中心にさらに時代時代の学園の状況に即した内容の検討、改訂を推進してまいります。

4 運営システムやITの活用等について

コロナ禍によるオンライン化は進和学園においても法人施設間の会議・打合せ・研修会等に幅広く展開し定着しました。移動時間の短縮は人材不足解消に一定の効果を得ることができました。引き続き次年度も個々のスキルアップや安定した通信環境を再整備していきます。またペーパーレス等のデジタル化をさらに推進し、効率的な情報の共有を目指します。同時に管理体制を定期的に確認し、セキュリティ上の不安を解消に努めてまいります。

5 生活体系の推進について

- ①高齢化、重度化に対し、健康管理に最大限配慮します。特に新型コロナウイルス感染症の予防対策については、引き続き徹底をしております。医療機関と連携して各種検査を行い早期発見、早期治療に努めます。また一人ひとりに個別的な支援が必要なため、介助技術等の向上を引き続き図ってまいります。
- ②地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるため、各入所施設を中心に、緊急受入の短期入所、日中一時支援、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化してまいります。他の法人、福祉関係団体等との連携も強化し「防災」「人権」「福祉教育」に取り組んでまいります。

6 作業体系について

- ①ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業(株)様のご支援のもと発注を頂いて48年目になります。次世代の自動車開発が激化する中、半導体不足、コロナ禍の状況もあり生産調整による受注は減少傾向にありますが(株)研進との協同で継続して受注確保に努めます。「顧客満足」「不具合ゼロ」の実現を目指してISO9001：2015年版を推進しております。
- ②作業の確保、時代の変化に対応するため多角化を目指してまいります。自動車部品組立作業以外の作業収入も厳しい状況にありますが情勢を踏まえ、売上目標を令和3年度同様の1億7千万円とします。
- ③サンメッセ製パン事業は学校給食、市場等への拡大を図ると共に、食品衛生法の改正に伴いHACCPの考えを取り入れた衛生管理で原材料の受入れから製品の出荷に至る工程の管理を徹底しております。販路拡大を目指した新製パン事業に向け準備をおこないます。
- ④ルネッサンスの農産品加工事業は9年目を迎えました。令和3年2月19日HACCP(食品の製造過程管理基準)認証を取得、令和2度末に公益財団法人日本財団の助成をうけて整備したレトルト殺菌機を本格稼働します。さつまいも、かぼちゃのペースト等の新規製造に取り組み年間を通じ作業量の確保とともに卸売業への強化を図ることによって売上向上、工賃確保に努めます。引き続き6次産業化ネットワークの活動を継続し、体制維持を図り、安全衛生管理を徹底してまいります。
- ⑤公共事業との取り組みの中でサンメッセが平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大、イベント参加に努めてまいります。サンメッセの「湘南みかんぱん」と、ルネッサンスの「トマトジュース」は、平塚市ふるさと納税返礼ギフトに登録され平成30年4月より湘南ひらつか名産品としても認定されています。また第62回全国推奨観光審査会においても推奨品に認定されました。食品加工の取り組みで応募したノウフクアワード2021ではチャレンジ賞を受賞しています。
- ⑥施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負、平塚市からの受託している高麗山公園清掃、(株)ゴバイミドリ様(いのちの森づくり作業請負)について取り組んでまいります。
- ⑦在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用はしまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も多角化に向け制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。
- ⑧いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村、NEXCO 主催による高尾・小仏植樹祭、秦野植樹祭に参加します。引き続き浜松植樹プロジェクト、豊島区には苗木を出荷します。令和4年度の植樹計画は25,000本を目指します。また他法人施設との連携(どんぐりブラザーズ)にも努めます。
- ⑨ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。優先調達等の受注量も増加傾向にあり更なる

協力体制の推進に努めてまいります。

- ⑩「ともしびショップ湘南平」は、障がいのある方の就労と社会参加の場としての役割を推進し多様な社会資源の活用を図ります。「サンメッセしんわ」と一体的に運営して5年目を迎えます。1階の喫茶部門は「湘南リトルツリー」としてホットケーキをはじめ、進和学園内の自主生産品を食材として活用するメニューを揃えています。販売部門は陶芸品や工芸品をはじめ楽しい商品を揃えています。2階は展示販売の他、活動スペースエリアとして家族会ボランティアの工房として、また各種イベント、レンタルスペースとしても幅広く活用していきます。コロナ禍による感染予防対策を徹底し、安心・安全な運営に努めます。
- ⑪平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は本年7月で丸8年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、平塚市の協力のもと本年も進和学園が、その事務局を担当します。平塚市市制90周年事業に合わせ運営の理解促進と販売促進に努めてまいります。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜20:00~20:30)に引続き利用者ご本人が中心に参画していきます。FM湘南ナパサ局も番組への協力、理解を示していただいています。本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めてまいります。